

2012年度「一柿塾」スケジュール

	日時	講師名 ／演題	①講師紹介／②講座内容
1	5月12日(土) 13:30～ 15:30 (以下同)	「良寛に学ぶ」 川村晃生	①慶應義塾大学名誉教授。「みどり・山梨」代表。日本文学の研究から出発し、人文学を現代社会に反映し得る方法論を模索して、環境人文学という新たな分野の学問体系を構想中。著書に『日本文学から「自然」を読む』(勉誠出版)など。②現代の社会は経済と科学が暴力的な力を持ってしまったが、そのために本来の人間的な生き方が失われてしまった。そうした状況を前に、私たちがより良く生きていく上での一つの指標が、かつての日本人の生き方の中に求められるように思われる。今回はその中で、江戸時代末期の僧である良寛の作品から、思想やライフスタイルを学びとりたい。
2	6月10日(日)	史実と 「七三一部隊の」 松村高夫	①慶應義塾大学名誉教授。声楽家。専攻分野はイギリス社会史、労働史、及び戦前日本の植民地(朝鮮、満州)の社会史、労働史。とりわけ七三一部隊の細菌戦について、家永教科書裁判をはじめとして、七三一関連裁判に深くかかわる。著書に『日本帝国主義下の植民地労働史』(不二出版)、『虐殺の社会史』(ミネルヴァ書房)など。②ハルビン郊外に設けられた七三一部隊は細菌性兵器の研究、製造とともに、これを散布し、また人体実験を行って「二重の殺害」を実行した。それに対して日本政府は今なおその事実を認めていない。今後私たちがなすべきことは何なのかを考える。
3	8月25日(土)	「日本農業の再生」 安田節子	①「食政策センター・ビジョン 21」代表。「日本有機農業研究会」理事。埼玉大学非常勤講師。食品の安全の問題と日本の農業の再生をテーマに、市民活動を続けている。著書に『自殺する種子』(平凡社新書)。またビジョン 21の機関誌『いのちの講座』は、隠されている情報が明らかにされ学ぶ所が多い。②いま日本の食糧の問題は、自給率と安全性が大きな問題になっている。農業、遺伝子組み換え、さらに原発事故による放射能汚染、そしてそれらにいつそう重くのしかかる形でTPP問題が出てきている。生産者と消費者のあるべき姿と、それに見合う政策とは何か。
4	11月11日(日)	「水と緑と土、 そしてお米」 富山和子	①日本福祉大学客員教授。立正大学名誉教授。1974年に書かれた『水と緑と土』(中公新書)は、環境問題のバイブルと評され、いち早くダムの弊害も説いた。ほかに『日本の米』(同上)、『水の旅』『水の文化史』(文春文庫)『環境問題とは何か』(PHP新書)など多数。1989年以来、「日本の米カレンダー」を制作し続け、好評を博している。②農業を単に生産の問題だけでなく、環境の視点から考えるとどうなるか。川(水)、森林(緑)、土壌の循環の中で、日本の伝統的風土や暮らしと農業(林業も)がどのように関わっているのかを多くの事例によりながら考察し、本来の人間と自然の共生を説く。
5	12月8日(土)	「若狭の原発の 今」 中島哲演	①東京芸術大学中退。高野山大学仏教学部卒。明通寺(福井県小浜市。国宝)住職。若狭の美しい自然や風土を守るために、一宗教者として40年にわたり原発問題に取り組んできた。大飯原発の強行運転に際し、断食抗議活動なども行う。「原子力行政を問い直す宗教者の会」世話人。「原発設置反対小浜市民の会」事務局長。著書に『原発銀座 若狭から』(光雲社)②山梨では浜岡原発が怖いという。しかし若狭の原発からも200kmと離れていないのである。もんじゅを初めとして15基の原発を抱える若狭、再稼働反対を決議した小浜市議会の動向もふくめ、若狭の近況を語る。
6	2月17日(日)	「菜園家族とは 何か」 小貫雅男	①滋賀県立大学名誉教授。「里山研究庵Nomad」主宰。長くモンゴルの研究に従事。あわせて菜園家族という社会形態、ライフスタイルを構想し、実践に移している。著書に『森と海を結ぶ菜園家族』(人文書院)、『菜園家族物語』(日本経済評論社)、『菜園家族 21』(コモンズ)など。②市場競争から人間を解放することを目指す菜園家族構想とは何か。資本主義セクター(C)と公共セクター(P)と家族小経営セクター(F)を組み合わせるCFP複合社会とは、どのような実体なのか。そして地元の滋賀県犬上郡多賀町での取り組みは? 人が幸せに生きる未来社会への希望を語る。